

平成28年度 インドネシア遠征実施要項

平成28年2月7日

1 概要

I B A F（国際野球連盟）に加盟している国と地域は現在 124 である。因みにサッカーは 208、陸上競技は 212、バスケットボールは 214 の国と地域が連盟に加盟しているため、野球というのは世界的に見て、非常に人口が少ない競技である。2020 年東京オリンピックでの野球競技復活に向けて野球普及は必須であり、大学準硬式野球界で何ができるのか。それは、国際交流・野球後進国への普及活動と考える。

2 目的

国際交流試合及び野球教室をすることで当連盟選手の競技力向上を目的とし、21 世紀の時代にふさわしい国際感覚豊かな人材の育成を目指す。さらに途上国に対する支援事業を通じ、インドネシアへの野球普及に努める。また両国の文化歴史的な背景を学び、21 世紀を生きる世代の社会的貢献の必要性を実感させる。

3 遠征場所

インドネシア国 バリ島またジャカルタ

4 遠征日程

1 1 月末または 1 2 月上旬（予定） 4 泊 5 日または 5 泊 6 日

5 遠征内容

① 交流試合（インドネシア選抜チーム・州代表チーム・クラブチーム）

※遠征時期に各州代表チームのトーナメント大会が開催されており、この大会の成績がナショナルチームメンバー選考となる。上位 3 チームや選抜チームを編成してもらい交流試合を開催予定

② 野球教室（ナショナルチーム相当の選手を対象予定）

③ 講義（海外に住む日本人が見た現地及び日本の現状）

6 派遣選手の募集要項

春季リーグ戦 1 部ベストナイン及び次点者、2 部以下各賞の受賞者を推奨するなか、国際的視野のある者を基本とし、将来的に海外事業に興味を持ち、グローバルな視点で社会的貢献を考えている者。

野球というスポーツを通じ、日本に限らず、世界を視野に入れて選手及び指導者を目指す者。

理学療法士やコンディショニングコーチ、トレーナーなどスポーツの分野に

携わることを目指す者。

遠征参加希望者に対しセレクションを実施し選抜するが、単に技術の優秀な選手を選考すると言うだけでなく、派遣の目的を理解し、自ら国際貢献の意志をもつものを選考する。

※当該年度の秋季リーグ戦に出場している選手でなければならない。

7 選考人数

選手 25 名程度 主務 1 名 女子マネージャー 2 名 (予定)

※遠征役員は団長 1 名・監督 1 名・コーチ若干名 (予定)

8 遠征費用 (一人分)

12 万円程度 (予定)

内訳 航空費 7 万円・宿泊費 3 万円 (1泊6千円)・食費 2 万円

9 インドネシアの野球史

人口 2.5 億人の世界第 4 位の国である。元々ソフトボール文化で、ソフトボールの第一線の選手が引退した先に野球があった。本格的な国際大会参戦は 1990 年後半からでまだ歴史が浅く、現在野球人口は 1.2 万人である。これを 2018 年アジア大会が首都ジャカルタで開催されるまでに 3 倍の約 3.5 万人にする計画を立てている。現在、インドネシアナショナルチームの監督は野中寿人氏日本人監督であり、日本・韓国・台湾・中国のアジア 4 強に続く第 2 グループに位置づけられ、2018 年アジア大会での目標は、中国代表打破を掲げる。

ナショナルチームの選手の身体能力は非常に高いが、野球環境、指導者不足、日本のプロ野球やメジャーリーグを観るインフラが整っていないことがレベルアップの妨げの一つの原因となっているため、日本と対戦することと野球教室を熱望している。本連盟に所属する学生達も、上記のような厳しい環境でプレーしているインドネシアの人達と、野球の指導等を通じて交流を経験することは、国際化が叫ばれる現代において、非常に良い経験になる事と思料する。

10 広報戦略

現地メディア等を利用し、準硬式球を広めインドネシアへ浸透させていく。

1.1 準硬式野球の普及

東南アジア諸国においては雨季時期の豪雨量も多く、皮の硬式球の耐久度合いが低い。また皮の硬式球購入に際しても国内では入手が困難なため、雨天では軟球を使用して練習をすることも多い。このような状況下において、準硬式球の普及が期待でき更に、準硬式野球の普及も可能と考えられる。

以上